

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ＞

御岳^{おたけ}火口では、活発な噴火活動が続いていましたが、3月下旬から爆発は減少し、噴火の規模も次第に小さくなるなど、噴火活動に低下傾向が認められます。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化はみられていません。

諏訪之瀬島では御岳火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、本日（9日）11時00分に噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。しかしながら、現在も噴火活動が継続していることから、御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴い大きな噴石が弾道を描いて飛散する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口中心から概ね1kmの範囲（図1）では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

御岳^{おたけ}火口では、2023年1月下旬から爆発が増加し、噴煙の高さが火口縁上2,000mを超える噴火や、御岳火口中心から1km付近まで大きな噴石が飛散する噴火が観測されるなど活発な噴火活動がみられました。3月下旬以降、爆発は減少し、噴火の規模も次第に小さくなるなど、噴火活動に低下傾向が認められます。御岳火口中心から1km付近まで大きな噴石を飛散させる噴火も観測されていません。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、5月以降概ね少ない状態で推移しています。

GNSS連続観測では、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の更なる増加と推定される変動は認められません。また諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、規模の大きな火山性地震の発生はありません。ナベタオ傾斜計（御岳火口より南西約2.2km）では、5月中旬頃から西上がりの変動が観測されていますが、噴火活動に活発化の傾向は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

諏訪之瀬島では御岳火口中心から1 km を超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなつたと考えられますが、現在も噴火活動が継続していることから、火口中心から概ね1 km の範囲では、噴火に伴い大きな噴石が弾道を描いて飛散する可能性があります。



図1 諏訪之瀬島 警戒が必要な範囲

御岳火口中心から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

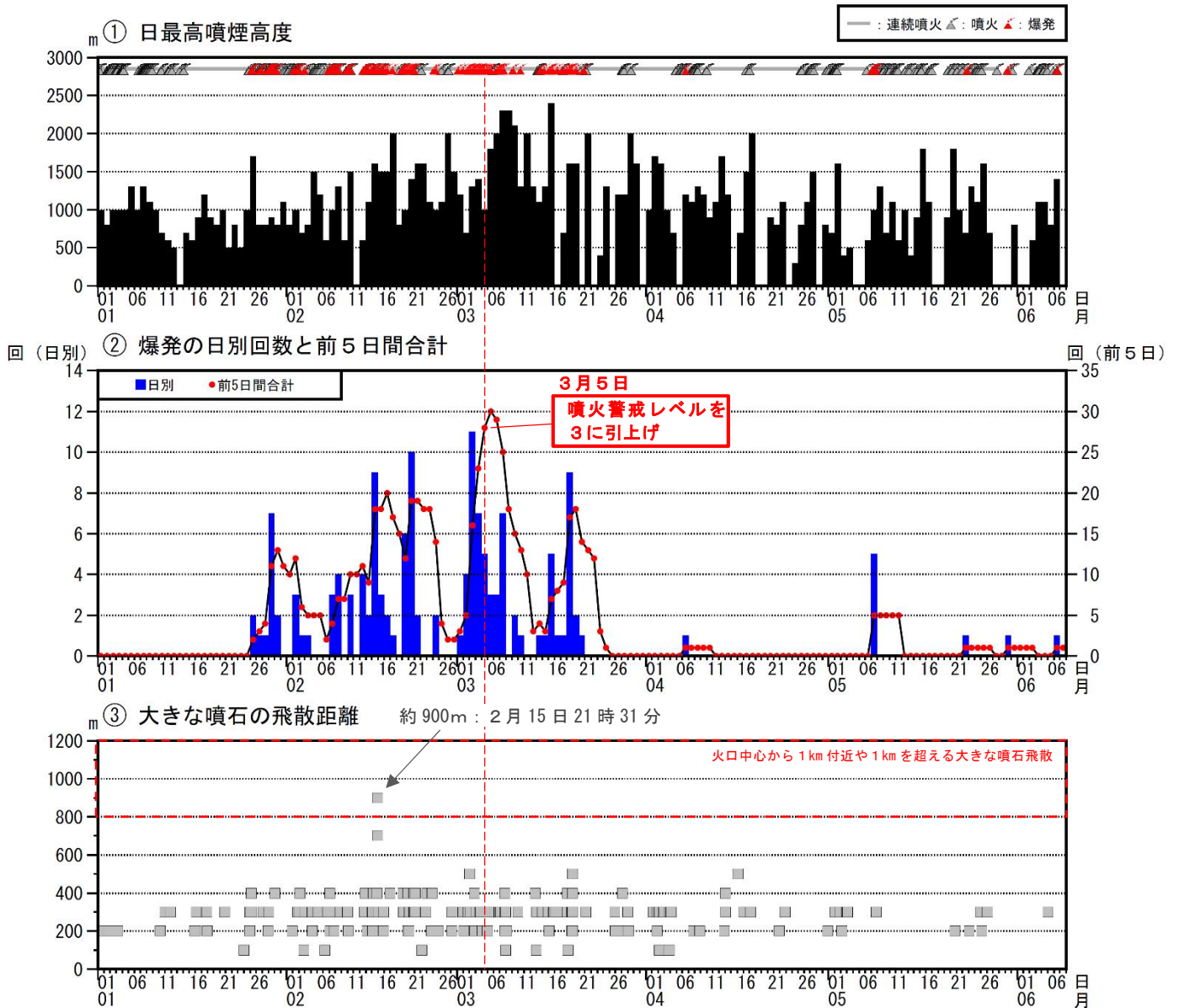


図2 諏訪之瀬島 爆発の日別回数及び噴石の飛散距離（2023年1月～6月8日）

- ・2023年1月下旬から爆発が増加しましたが、3月下旬以降爆発は減少しています。
- ・3月には噴煙の高さが火口縁上2,000mを超える噴火が観測されましたが、噴火の規模は次第に小さくなっています。
- ・御岳火口中心から1km付近まで大きな噴石を飛散させる噴火（下段図中赤破線内800m以上飛散）は2月16日以降観測されていません（2月15日に約900mまで飛散）。

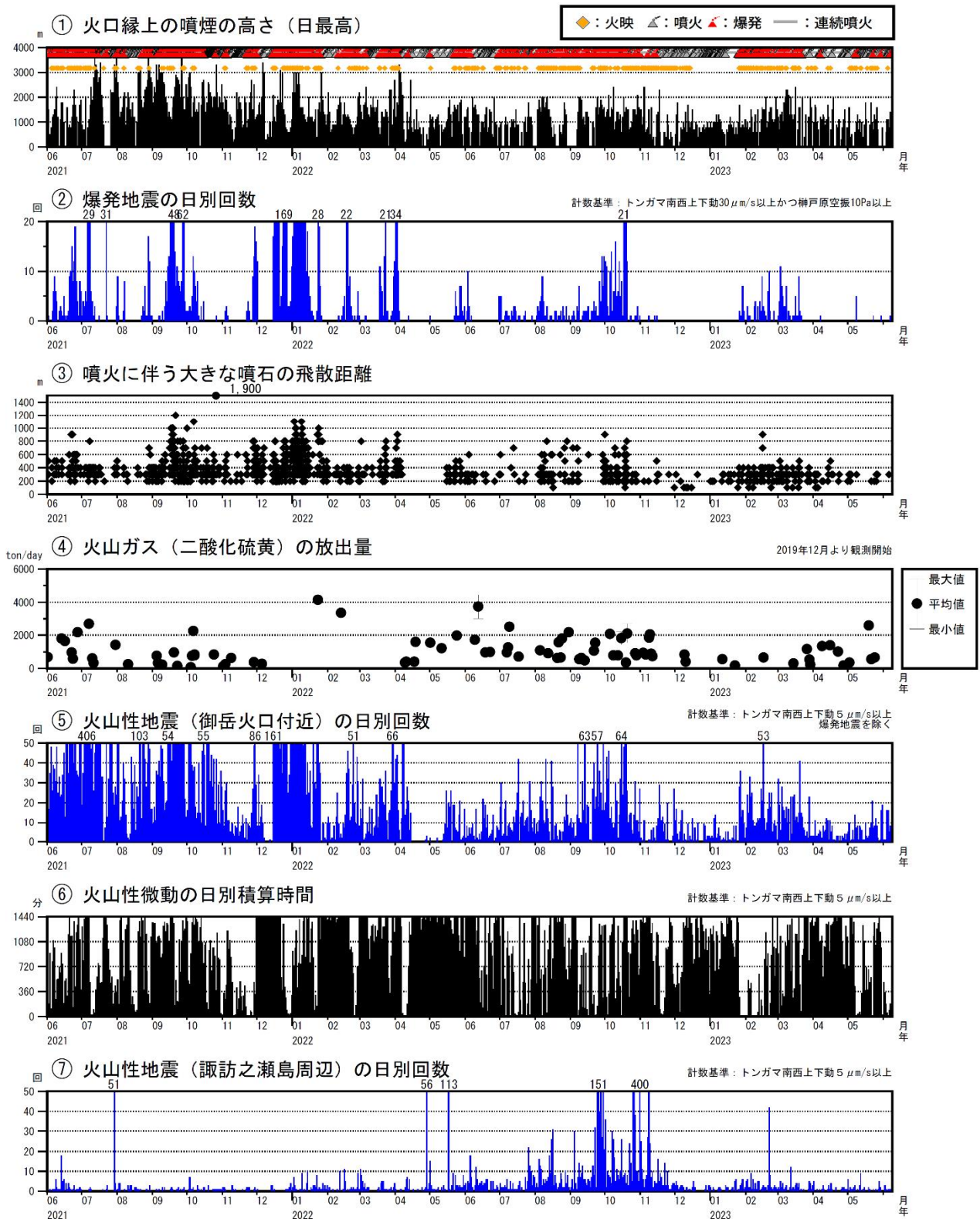


図3 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2021年6月～2023年6月8日）

- ・ 3月下旬以降、爆発は減少し、噴火の規模も次第に小さくなるなど、噴火活動に低下傾向が認められます。御岳火口中心から1km付近まで大きな噴石を飛散させる噴火も観測されていません。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、5月以降概ね少ない状態で推移しています。
- ・ 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しています。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は2019年12月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

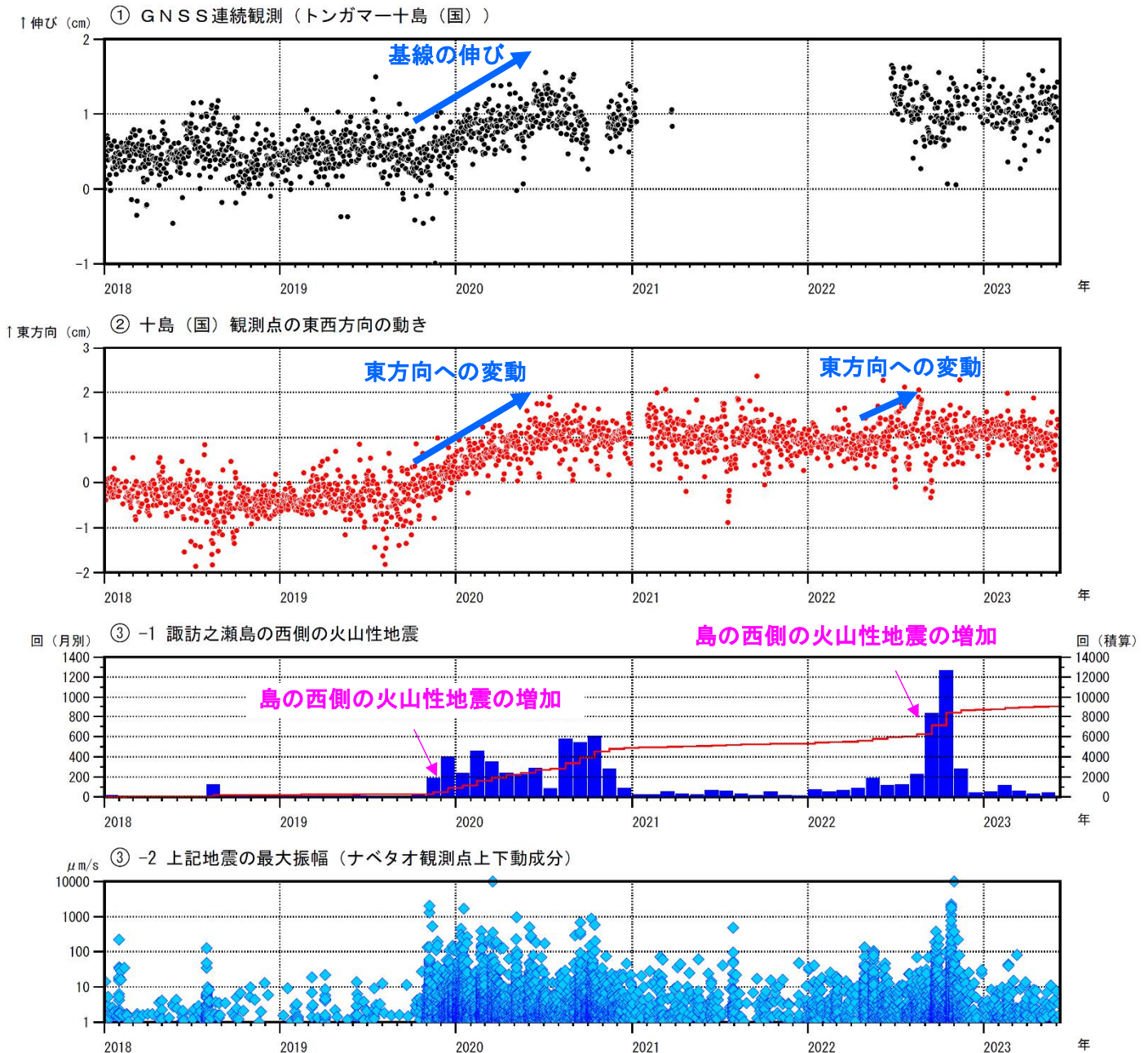


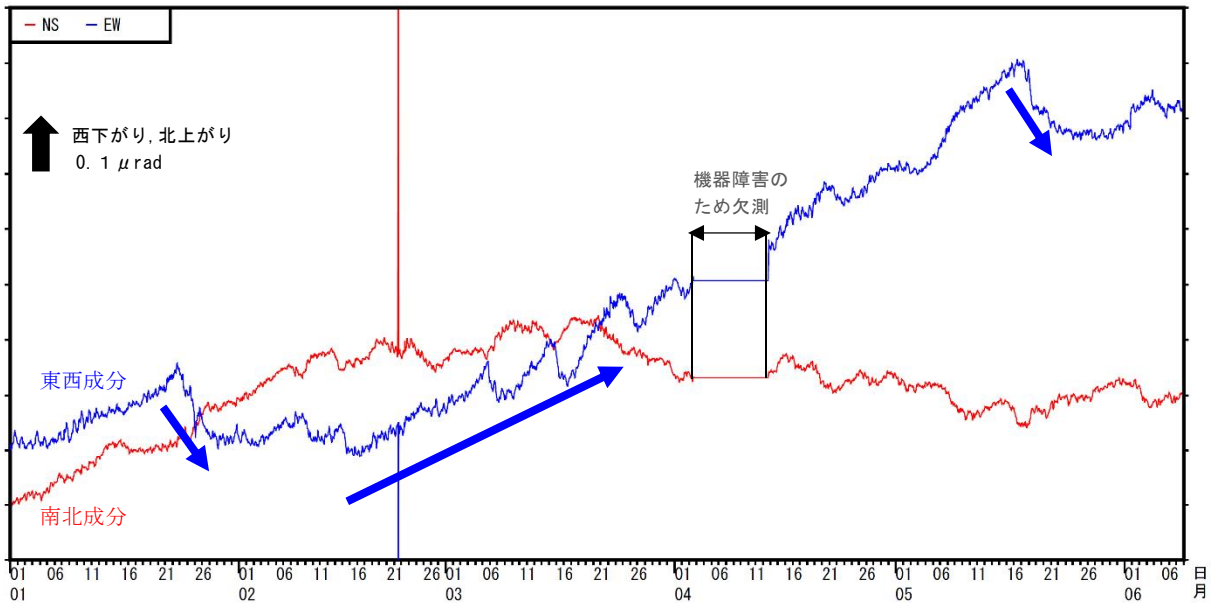
図4 諏訪之瀬島 諏訪之瀬島島内の地殻変動と周辺の火山性地震（2018年1月～2023年6月8日）

- ・GNSS連続観測では、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の更なる増加と推定される変動は認められません。
- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、規模の大きな火山性地震の発生はありません。

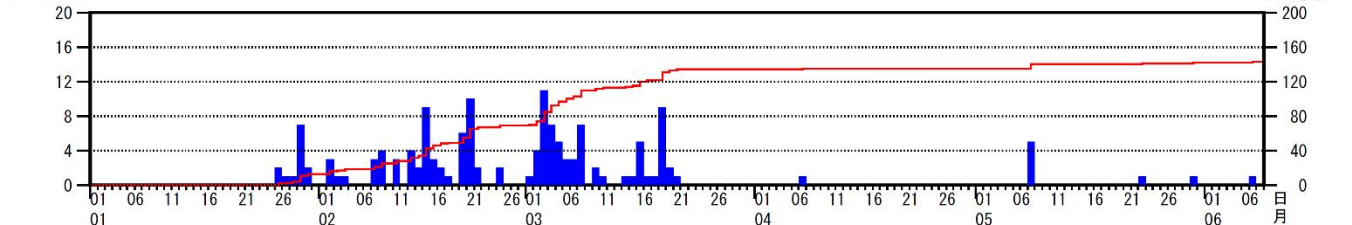
①の基線は図6の①に対応しています。②は島外の観測点を固定した観測点の東西の変動を示しています。空白部分は欠測を示しています。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

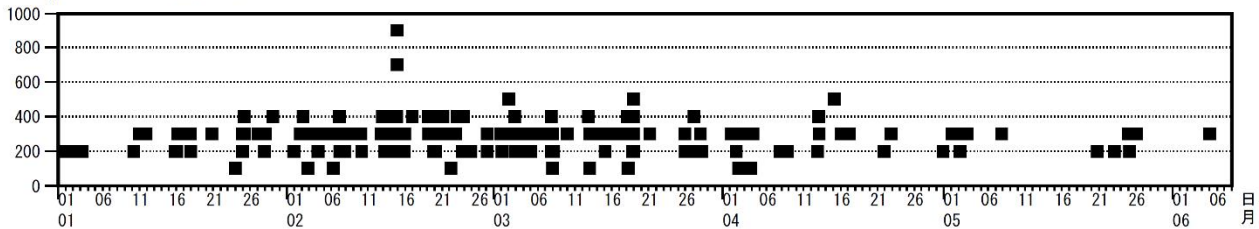
① ナベタオ観測点の傾斜変動



② 爆発の日別回数と積算回数



③ 噴石の飛散距離



④ 時間降水量 (解析雨量)

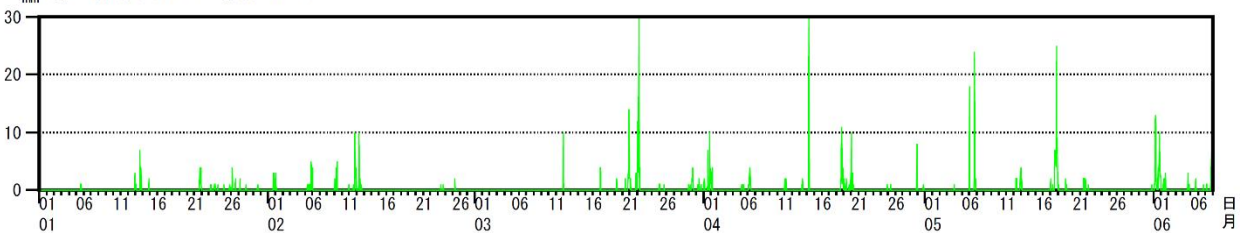


図5 諏訪之瀬島 ナベタオ観測点の傾斜変動と噴火活動 (2023年1月～6月8日)

- ・ナベタオ傾斜計 (御岳火口より南西約 2.2km) では、5月中旬頃から西上がりの変動が観測されていますが、噴火活動に活発化の傾向は認められません。
- ・2023年1月下旬から同程度の西上がりの変動が観測され、2月中旬から3月下旬にかけて西下がりの変動が観測されました。その期間には爆発の増加が認められました。

傾斜データは出水期を中心に降水の影響を受ける場合があります。



図6 諏訪之瀬島 観測点配置図とGNSS連続観測による基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(京): 京都大学